

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	はぐはぐキッズこども園中延
施設所在地	東京都品川区中延3-13-16
法人名	はぐはぐキッズ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

生き物

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

公園などで見つけた生き物や家庭で飼っている生き物などを通して、図鑑をみて関心がでていた。生き物ってなに?という疑問や不思議からどんなものを生き物というのかなどの仲間分けなども感じながら、園にある図鑑で見たことのある生き物を見つけて楽しんでいる。また、読めるようになったひらながで説明を読み上げている姿から、興味を持っているため深めようと思った。

2. 活動スケジュール

6月—図鑑で好きな生き物を見つける。図鑑や写真をみながら制作活動を行う。
10月—発表会の劇で生き物をすることを決め、自分のなりたい生き物を再度図鑑などを見てみつけていく。
11月—衣装づくり：ポリ袋を使って生き物をイメージした衣装を作る。
12月—発表会で発表をする。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
いつでも自由に図鑑が見れるように、本棚に図鑑を置く。また、新しい図鑑も導入し更に好きな生き物を学べる
知れる機会を設けた。
制作棚を用いて、制作時には子どもたちが自由に材料を選択し作っていけるようにしていった。また、それぞれが選んだ生き物の写真を印刷しより、イメージして作っていけるようにしていった。
(制作活動：紙粘土やカラーセロハンなどを用いてそれぞれが制作方法を選択し作っていった。)
(発表会の制作：ポリ袋をメインに、カラーテープや両面テープ、キラキラテープ、油性ペンや折り紙、画用紙なども用いて素材によって使い分けるコツも学べていた。)
発表会では、保護者にも子どもたちが選んだ生き物を知ってもらうために生き物の写真を掲示したり、親子で話ができる機会を設けた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

6月 図鑑で好きな生き物を見つける。図鑑や写真をみながら制作活動を行う。
いつでも自由に図鑑が見れるように、本棚に図鑑を置く。また、新しい図鑑も導入し更に好きな生き物を学べる
知れる機会を設けた。

- ・春に散歩で見つけたちょうちょや芋虫から生き物への関心が見られ、その後はポケモンや好きなキャラクターに似ている恐竜や生き物を見つけて図鑑をみて楽しむ様子があった。そこから、制作では好きな生き物を紙粘土やカラーセロハン、絵の具など自由に選択し縛りの無いそれぞれの制作活動を行った。
- ・図鑑を毎日見ている中でなりきって遊ぶことも楽しみの一つとしてあり、中には読めるようになったひらがなで理解していった生き物の特徴を博士のように話す様子があった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

子ども達が気になるものや指を指して興味を示しているものに対し言葉掛けをしたり、一緒に読み上げながら動物の特徴を知っていく。散歩などで見つけた生き物が図鑑にいと「モンシロチョウとこれは似ているけど違う名前だって」、「僕これ見たことある！」など実際に発見したものや過去の記憶を辿って生き物を見ている姿もあった。実際に図鑑を見ずに知っていることを周りに伝え得意げになる様子の子もいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちの中で図鑑を見ることはいろいろなものを知るきっかけになります。その中でひらがなが読めるようになったことで見るだけでなく読み上げることで生き物の特徴であったり、他児が読むことでひらがなへの関心や図鑑に興味を持った物を友だちに読んでもらう姿があり、他児との関わりも深まっていました。
絵本ではなく、図鑑があったことで子どもたちが図鑑への活用方法だけでなく、生き物の知識も自分で知るきっかけとなったように思います。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	はぐはぐキッズこども園中延
施設所在地	東京都品川区中延3-13-16
法人名	はぐはぐキッズ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
絵本やおもちゃを遊んでいる時には色に興味を持ち、色の名前を保育者や友だちに伝えようとする場面を見つけたから。

2. 活動スケジュール

10月初旬 絵本導入
10月中旬 絵の具に触れる
10月下旬 新聞紙、絵の具に触れる

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

机を何台か繋げ色々な色の絵の具と新聞紙を敷き感触遊びも出来る様にしていた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

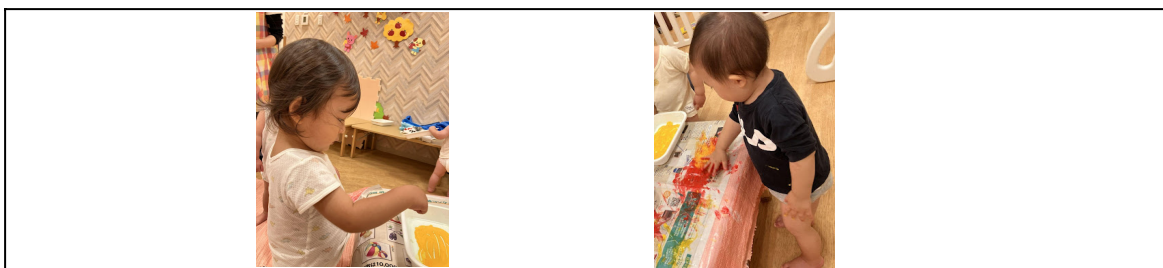
10月絵の具をつかった感触あそび

- ・正方形の机と制作棚を室内へ準備する。
- ・つかまり立ち、這い這い、ずりばいなど身体の発達にも違いがあったので、活動・取り組みやすい体勢も違うため床、机上両方でできるように正方形の机を使用、床面積も広くとることができた。
- ・大胆に絵の具を使ったことが初めてだったが、保育者が手に取ったことで興味をもち、自分から手を伸ばす児がいた。そこから指、手のひら、と段階を踏むように触っていく様子があった。指に色が付いたのを不思議そうに観察したり、自分から紙につけてみて、見比べてみたりしていた。
- ・触れる事に抵抗がある児は周りの様子を見ながら、触りたくなった時に触ってみた。他児が新聞紙に絵の具を付けている様子や新聞紙についた絵の具を観察していた。
- ・色を付けた新聞紙を使い、11月の室内の壁面、紅葉の木を作る。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

新聞紙を机に貼っておき、絵の具も近くに置いた状態で子ども達が手に取りやすい様にしていた。最初は初めての事に抵抗が見られる児もいたが、何人かがやり始めると興味を持ち始め絵の具に触れる姿が見られた。手に取ると絵の具が混ざる様子を見ながら楽しむ姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

初めての絵の具にも積極的に触れに行く児が多かった。保育者が最初に触れてみることで、子ども自身からも触れやすく、大胆に絵の具に触れることができよかった。手で大きく塗り広げたことで色の重なりや色の広がり方もおもしろく、観察しながら取り組んでいた。触れていない児も取り組んでいる児の様子を観察し、興味を持っている様子もあったので今後も触れる機会を作っていく。

途中、机につかまり立ちをして取り組む児が多くなったので、床スペースを片づけて机上スペースを多くとった。

最初から様々な色を準備しておいたが、子どもたちの様子やその場の状況に応じて色の変更やその他の道具が取りやすかった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	はぐはぐキッズこども園中延
施設所在地	東京都品川区中延3-13-16
法人名	はぐはぐキッズ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

生き物

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
さまざまな生き物の図鑑を毎日のように交代でみている子どもたちの様子から興味を持っているため深めようと思った。

2. 活動スケジュール

6月—図鑑で好きな生き物を見つける。図鑑や写真をみながら制作活動を行う。
10月—発表会の劇で生き物をすることを決め、自分のなりたい生き物を再度図鑑などを見てみつけていく。
11月—衣装づくり：ポリ袋を使って生き物をイメージした衣装を作る。
12月—発表会で発表をする。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
ゆったりと図鑑を見れる時間を用いて、図鑑も様々な生き物(動物、魚、昆虫)のものを用意しそれぞれがほんとうに興味を持ったもので知識を深めていけるようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

活動内容

10月—発表会の劇で生き物をすることを決め、自分のなりたい生き物を再度図鑑などを見てみつけていく。いつでも自由に図鑑が見れるように、本棚に図鑑を置く。また、新しい図鑑も導入し更に好きな生き物を学べる知れる機会を設けた。

- ・劇をすることが決まり、自分たちのオリジナルの劇をするにあたり、なりたい役を決めていく。生き物になりたい児が多く再度図鑑を用いて自分のなりたい生き物を選んでいった。
- ・セリフも図鑑の特徴などをみながら入れていき、自分のセリフは自分で決めていけるようにした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

この頃には図鑑の文字もほとんど読めるようになっていく見も多く、図鑑の文字を読み上げながら数字などの大きさに驚いていたり、「メートルってなに？」と知らない単語を疑問に思い、保育者に教えてもらったり、保育者が質問をすると覚えたことを教えてくれる様子がある。また、お気に入りのページが出来た見もあり、絵本を見る時間では、すぐにページを開き、犬や猫の種類を見せてどれがいいか周りに聞いている見もいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

劇をやることで、より真剣に慎重にページをめくりながら生き物を見つけているのが印象的でした。6月よりも図鑑を隅々までみており、みたい図鑑も友だちと一緒にみて行くことができるようになり、半数以上がひらがなが読めるようになっていたため、数字などをみて大きさを知っていたり、面白い文字を見つけて笑いあったりする様子があり、14名全員が図鑑を見て自分のなりたい役を決めることができました。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	はぐはぐキッズこども園中延
施設所在地	東京都品川区中延3-13-16
法人名	はぐはぐキッズ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

生き物

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

テーマの設定理由：生き物の図鑑を見ているなかで、ネズミに興味を持った為ネズミにちなんだ活動を取り入れてみる。

2. 活動スケジュール

10月—図鑑で色々な種類のネズミを見つける。ネズミが主役の物語（ぐりとぐら）を見つける。

11月—物語を沢山読んでクリスマスにちなんだぐりとぐらの物語の練習を行う。

12月—発表会で発表する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

いつでも自由に図鑑が見られるように、幼児クラスの本棚に図鑑を置く。

またぐりとぐらの絵本の種類を増やして、イメージが付きやすいようにした。

製作棚を用いて、ぐりとぐらで使うものの制作時は自由に材料を選択し作っていけるようにした。またぐりとぐらの耳を制作する際は再度図鑑や絵本を見て、自分たちで想像した色や模様を描けるようにした。

(制作活動：絵の具の色やマスキングテープなどを用いてそれぞれが制作方法を選択し作っていった。)

(発表会の制作：オーナメントの形に切った画用紙に各自選んだ絵の具やマスキングテープ等で模様を作る。

ぐりとぐらの帽子につける耳を耳の形に切った画用紙に、製作棚から選んだマスキングテープや、クレヨンで好きなように模様を描く)

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・春にぐりとぐらの絵本を読むと「これはネズミかな？」と関心を持っている姿がみられた。10月に行き物の図鑑を見るとネズミが沢山種類がいて関心をもっていた。ぐりとぐらは野ネズミだよと話す「野ネズミはどれ？」といいながら真剣に図鑑を見ていた。
- ・その後、ぐりとぐらの絵本を何冊か見ているとぐりとぐらに興味を持つようになった。
- ・生活発表会の練習を進める中で耳の制作を行うと、野ネズミやぐりとぐらをイメージしながら色を塗ったり模様を書いていた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)
「ぐりとぐらってこんな色だったよね？」と子ども達同士で会話をしていた。制作棚を見て「何をつかおっかな」「この色にしようかな」と会話をしていた。選んだもので耳を作り、ぐりとぐらになりきっていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

3歳児クラスに上がりぐりとぐらを読み始め、最初は物語に興味を示す姿が見られていなかったが図鑑をみてネズミに興味を持ち物語に興味を持つことができた。そこから想像力が膨らみ、ネズミの耳はどんな風なのか自分たちで考えて制作を行う事が出来た。
図鑑を見ることで他の生き物にも興味を持ち、家族で行った水族館や動物園で出会った生き物の話をしている姿が見られる。また、公園や散歩中にも生き物を発見すると喜んでいる姿が見られるようになった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	はぐはぐキッズこども園中延
施設所在地	東京都品川区中延3-13-16
法人名	はぐはぐキッズ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ・マグビルドの玩具が好きで、保育室でよく遊んでいた。
- ・重ね合わせて色の変化を楽しむ姿が見られるようになったため。
- ・マグビルドを目に当て景色が変化する様子に興味を持つようになったため。
- ・保育者や他児と色の名前を挙げている姿が見られるようになった。
- ・衣装作りを予定していたためより色に興味を持ってもらえるようにした。

2. 活動スケジュール

11月：発表会衣装作り

- ・ポリ袋と不織布に絵を描いたり色をつけたりしていった。
 - ・ポリ袋へは油性ペン、不織布へは絵の具を使用して色を付けた。それぞれ同じ色でも色味が違うことに気が付けるような声掛けを意識していく。
 - ・不織布は発表会で登場する役の絵柄を事前に描いておき、それぞれが担当している役の絵に色を付けられるようにして意欲を持って制作に取り組めるように準備した。
- 11月中旬に油性ペンを使用してポリ袋へ自由にお絵描き。
11月下旬にマグビルドを使って色の変化に興味を持てるように活動を行う。
11月下旬に絵の具を使用して不織布へ色付けを行う。
切り取られた不織布のイラストをポリ袋の衣装へ貼り付け。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・太陽の光が当たり、マグビルドの色が透ける様子を活動を楽しめると考え、晴れの日活動を行った。
- ・新品のマグビルドを使用することで顔に当てた時に、周りの景色がよく見えるようにした。
- ・公園の大きさや、使用状況に合わせて活動場所(公園)を選んだ。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

11月：発表会衣装作り

- ・ポリ袋と不織布に絵を描いたり色をつけたりしていった。
 - ・ポリ袋へは油性ペン、不織布へは絵の具を使用して色を付けた。それぞれ同じ色でも色味が違うことに気が付けるような声掛けを意識していく。
 - ・不織布は発表会で登場する役の絵柄を事前に描いておき、それぞれが担当している役の絵に色を付けられるようにして意欲を持って制作に取り組めるように準備した。
- 11月中旬に油性ペンを使用してポリ袋へ自由にお絵描き。
11月下旬にマグビルドの活動。
11月下旬に絵の具を使用して不織布へ色付けを行う。
切り取られた不織布のイラストをポリ袋の衣装へ貼り付け。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・好きな色のマグビルドを手にとると顔に当て周りの景色に色がつくことを楽しんでいた。
- ・遊具や葉っぱに当て色がつくのか試していた。
- ・マグビルドを重ね合わせると、単色から色が混ざる変化を保育者と共有していた。
- ・日の光に当てると、影に色がつく変化に気づくと次々と別の色に変えて実験していた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・自分たちで好きな色を使いながら制作に取り組むことができたため、意欲的な姿が見られた。
- ・最初は食べ物の色をイメージしながら塗っている児もいたが、絵の具の感触を楽しんだりカラフルになっていく様子を見て混ぜ合わせたりすることを楽しんでいた。
- ・複数色用意していたことで、児がイラストに合った色を考えたり色を混ぜ合わせた時の色味を想像したりすることを楽しみながら取り組んでいくことができていたようだった。
- ・絵の具やワゴンが視界に入る場所へ置かれていたことにより、児から欲しい色の要望などを伝えやすい環境を整えることができた。
- ・絵の具の製作やっていたことで、色に対して興味を持つ児が多かったこともあり活動の初めから好きな色を手にとっていた。
- ・晴れた日だったことで、日の光に当てると影がグレーから色がつくことを発見する児がいた。太陽の日を直接見ないように配慮しながら活動した。
- ・自分たちで興味のあるものを選び、物によって見え方や色の映り方に変化があることを楽しみながら活動していた。大きく援助しなくとも自分達での発見を大切にしながら活動を進めていった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	はぐはぐキッズこども園中延
施設所在地	東京都品川区中延3-13-16
法人名	はぐはぐキッズ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ・日々の園生活を送る中で、自然と視界に入ってくる色に興味を持ったり好んでお絵描きに取り組んだりする姿が見られるようになったため。
- ・絵の具を使った制作等を通して、好きな色を使うことや色が混ざり合う様子を楽しんでいたため。
- ・好きな色について語り合ったり、見慣れない色の名前を保育者に質問したりする姿が見られたため。
- ・身に着けているものと同じ

2. 活動スケジュール

11月上旬 衣装のベース作り：ポリ袋に絵を描き、不織布に絵の具で色を付ける

11月中旬 ポリ袋へお絵描き

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・自由に色を選びながらお絵描きをしたり色を塗ったりできるように、複数色用意して児が手に取れる場所に配置した。

- ・机の上にシートを敷いてダイナミックに楽しめる環境を整えた。

—準備物—

- ・油性ペン ・絵の具 ・筆 ・ポリ袋 ・不織布

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

11月：発表会衣装作り

- ・ポリ袋と不織布に絵を描いたり色をつけたりしていった。
- ・ポリ袋へは油性ペン、不織布へは絵の具を使用して色を付けた。それぞれ同じ色でも色味が違うことに気が付けるような声掛けを意識していく。
- ・不織布は発表会で登場する役の絵柄を事前に描いておき、それぞれが担当している役の絵に色を付けられるようにして意欲を持って制作に取り組めるように準備した。

11月中旬に油性ペンを使用してポリ袋へ自由にお絵描き。

11月下旬に絵の具を使用して不織布へ色付けを行う。

切り取られた不織布のイラストをポリ袋の衣装へ貼り付け。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・色を混ぜたら見た目はどうなるのか疑問を抱く。実際に色を混ぜながら変化を楽しんだ。
- ・ワゴンを見ながら保育者へ欲しい色を伝えていくことができた。
- ・手と筆で色をつけた時の違いに気が付きながら取り組んでいた。
- ・児自身で手に取れる場所へ絵の具やペンが用意されていたことで、活動へ参加する積極的な姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・自分たちで好きな色を使いながら制作に取り組むことができたため、意欲的な姿が見られた。
- ・最初は食べ物の色をイメージしながら塗っている児もいたが、絵の具の感触を楽しんだりカラフルになっていく様子を見て混ぜ合わせたりすることを楽しんでいた。
- ・複数色用意していたことで、児がイラストに合った色を考えたり色を混ぜ合わせた時の色味を想像したりすることを楽しみながら取り組んでいくことができているようだった。
- ・絵の具やワゴンが視界に入る場所へ置かれていたことにより、児から欲しい色の要望などを伝えやすい環境を整えることができた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	はぐはぐキッズこども園中延
施設所在地	東京都品川区中延3-13-16
法人名	はぐはぐキッズ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
「身のまわりの色に気づく・興味を持つ」ことをねらいに、カラーセロファンや絵の具を使って色への好奇心を育むことを目指しました。
「普段見ている光景が違う色に見えたら面白いのでは？」と、カラーセロファンを通した世界を子ども達に見てもらいたいと思い、今回の活動を考えました。「これは○○色」「△△色が好き」と色の認識が芽生えてきた子どもたち。「いつもと色が変わって見えるとしたらどんな反応を見せてくれるだろう？」と、私たちもわくわくしながら活動に取り組みました。

2. 活動スケジュール

11月-カラーセロファンを透明の台紙に貼り付ける。
12月-クリスマスツリーの台紙に絵の具を使用して指スタンプで装飾。
1月-完成したセロファンの台紙を持って、戸外・室内で色が変わる様子を楽しむ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
11月<準備物>ラミネートシートA4、カラーセロファン(赤・青・緑・黄)、色付き透明シール、テープ
<環境設定>子ども自身が制作棚から制作の材料を選ぶことが出来るようにした。カラーセロファンは小さく切って後ろにテープを貼り、貼りやすいようにした。
12月<準備物>ピンク、白、黄色、水色の絵の具、パレット
<環境設定>子どもたちの指のサイズに合うようなパレットを準備し、パレットの中身は好きな色を自分たちで取れるように配置した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

<11月>

ラミネートシートにカラーセロファンや透明のシールを貼ることや色の重なりを楽しむ。

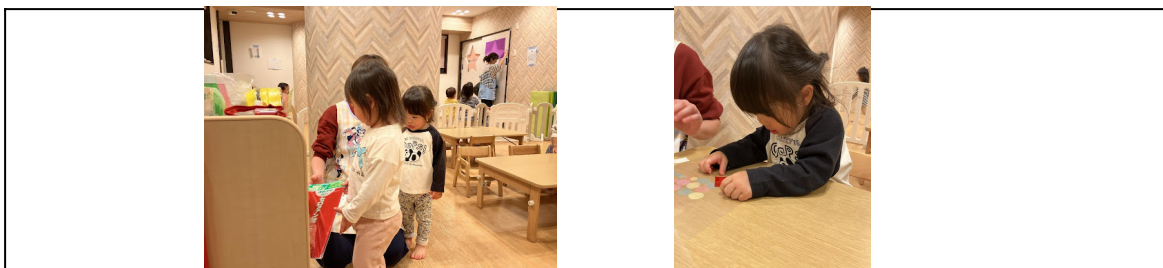
<12月>

好きな色をとって指スタンプをし指についた絵の具を混ぜ合わせたり、台紙にスタンプをして色の変化を楽しむ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・素材を選ぶ際に「これが良い」と話す姿が見られた。
- ・最初は、シールやセロファンを並べて貼る児が多かったが、保育者が重ねて貼っているのを見て真似をする児が増えていた。
- ・色が混ざると「変わった!」や「見て!」と変化した様子を伝えていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

何事にも”自分で”と意欲的な時期なため、制作棚から制作の材料を自分で選んで取ってくることを喜んでいる姿が見られた。カラーセロファンは初めて触れる児も多く、透かして見ると普段見ている世界の色が異なって見えることに驚いている様子だった。色が混ざると色が変わることに気づき、出来上がった色を新しい発見として周囲に知らせていた。

色を選ぶ・絵の具を混ぜるなど「自分でやりたい」という意欲が満たされた作品が出来上がった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	はぐはぐキッズこども園中延
施設所在地	東京都品川区中延3-13-16
法人名	はぐはぐキッズ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

生き物

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
さまざまな生き物の図鑑を毎日のように交代でみている子どもたちの様子から興味を持っているため深めようと思った。

2. 活動スケジュール

11月—衣装づくり：ポリ袋を使って生き物をイメージした衣装を作る。
12月—発表会で発表をする。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

制作棚を用いて、制作時には子どもたちが自由に材料を選択し作っていけるようにしていった。また、それぞれが選んだ生き物の写真を印刷し、よりイメージして作っていけるようにしていった。

(制作活動：紙粘土やカラーセロハンなどを用いてそれぞれが制作方法を選択し作っていった。)

(発表会の制作：ポリ袋をメインに、カラーテープや両面テープ、キラキラテープ、油性ペンや折り紙、画用紙なども用いて素材によって使い分けるコツも学べていた。)

発表会では、保護者にも子どもたちが選んだ生き物を知ってもらうために生き物の写真を掲示したり、親子で話ができる機会を設けた。

4. 探究活動の実践

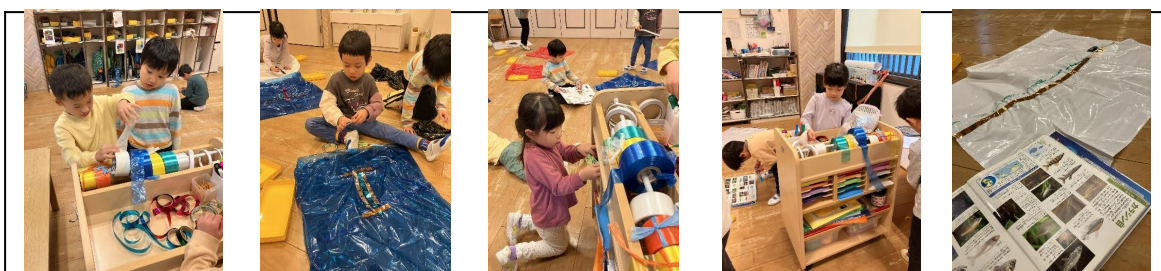
<活動の内容>

・制作棚があることで自分たちで使いたいものを選択し自由に作っていくことが出来た。また、素材の相性などを組み合わせていく中で発見もできており制作するにあたっての力もついていた。
・イメージを膨らませながら作った衣装は当日までも楽しみにしており、数名から耳をつけたいとリクエストがあり保育者が作ったものに自由に色をつけていき、その際も制作棚を用いていくつかのペンの種類を使い分けながら使うことができていた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

図鑑をみながらにする！と図鑑を床に広げて衣装を作っていたり、保育者にどのように進めていくのか相談をしながら、保育者も「ここが羽みたいだね」「下の方にひらひらとかキラキラしてもいいんじゃない？どっちがいいと思う？」など子ども達が考えて作っていきけるような言葉かけで見守っていった。「ここにポケットを付けてお花が出てくるようにした」「歯が沢山あるからここにいっぱい歯をつけたい」などそれぞれが図鑑で知った事やオリジナル性を入れていきながら衣装作りを楽しんでいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

今までは、制作前に子どもたちと一緒に一階の倉庫に材料を取りに行くところからスタートしていたものが、制作棚があることで一カ所にいくつかの材料が揃っており、子どもたちも順番に必要なものを取りに来て自由に制作ができている様子が印象的でした。保育者が用意するものだけでなく、主体性を大切にできた活動になりました。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	はぐはぐキッズこども園中延
施設所在地	東京都品川区中延3-13-16
法人名	はぐはぐキッズ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

生き物

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
保育室でさなぎを飼っており、蝶に孵化する様子を観察したり、孵化した蝶を自然に戻したりする経験をして、昆虫や生き物への興味関心が高まっているように感じた。また、自由活動時には動物のブロックで遊んだり動物に成り切って遊ぶ様子が見られていた為、興味関心から遊びの幅を広げていけるのではないかと考えた為。

2. 活動スケジュール

10月—動物の出てくる絵本を見る
11月—「ともだちほしいなオオカミくん」の絵本に興味を持ち自分で好きな動物を選び、発表会の配役を決める
12月—絵本の印象に残っている場面を絵で描く
生活発表会で自分で選んだ役を演じる
2月—触れ合い体験(ふれあいドッグパーク)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

絵本の読み聞かせを行い、物語に興味を持てるようにした。もともと生き物が好きなこともあり、「これ私！」と動物になりきる姿が見られ、保育者が劇をすることを提案し、自分たちで話し合いを行い配役を決め、劇を行った。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

自分たちで配役を決めて、オオカミ、ウサギ、キツネ、ブタ、タヌキにそれぞれがなりきって劇を行った。劇中の身振り手振りも、この動物だったらどうするのか自分たちで考えて動いていた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)
劇で動物役を演じられることになり、「私は〇〇」と普段から自分の役になりきって過ごす姿が見られた。「うさぎさんだったらこんなポーズするかな？」とそれぞれの動物について友達と話、劇でどのように動くか「先生！こーする？」と提案してくる様子も見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

もともと興味があった生き物が出てくる話だったので、さらに生き物について興味が深まり、動物について「知りたい！」という気持ちが高まったようだった。また、内容が「見た目で判断しないこと」の大切さを考える内容だったので、友達との関係性を見つめ直す良いきっかけにもなったようだった。絵本を読み、劇の練習を進めていく中で「こーしたらいいかも！」と児から意見が出てそれを取り入れる事も出来、児主体で進めていくことができたのではないかと感じた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	はぐはぐキッズこども園中延
施設所在地	東京都品川区中延3-13-16
法人名	はぐはぐキッズ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

生き物

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

保育室でさなぎを飼っており、蝶に孵化する様子を観察したり、孵化した蝶を自然に戻したりする経験をして、昆虫や生き物への興味関心が高まっているように感じた。また、自由活動時には動物のブロックで遊んだり動物に成り切って遊ぶ様子が見られていた為、興味関心から遊びの幅を広げていけるのではないかと考えた為。

2. 活動スケジュール

10月—動物の出てくる絵本を見る

11月—「ともだちほしいなオオカミくん」の絵本に興味を持ち自分で好きな動物を選び、発表会の配役を決める

12月—絵本の印象に残っている場面を絵で描く

生活発表会で自分で選んだ役を演じる

2月—触れ合い体験（触れ合いドッグパーク）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

動物の出てくる絵本を保育室にたくさん準備し、生き物に関連する物語を読みたい気持ちを高めていった。また、クレヨンだけでなく、ペンや絵の具、折り紙やテープなどを用意し、自分なりに表現活動を楽しめるようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

動物が好きで遊びの中でもよく動物になりきっている様子がある為、「ともだちほしいなおおかみくん」の絵本を題材に劇を行うことにした。絵本の内容理解を深め、より役になりきって演じるために何度も絵本を読み、印象に残った場面を、画用紙1枚を渡し製作棚にあるものを自由に使って表現する活動を行った。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

絵本を読む際は、自分だったらどの動物になりたいか考えながら読む姿があった。また、友達にもどの動物になりたいかを聞き、会話を広げていっていた。

絵を描いた際は、同じ場面でもさまざまな素材を使うことで、自分なりの1枚を完成させる事が出来ていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

日頃から動物が好きで自由活動時などに、書いて遊ぶ姿はあったが、生活発表会に向けて劇の練習をしていたこともあり、自分が演じる役が出てくる場面を描いている児が多かった。同じ動物を描いていても、表現の仕方に少しずつ違いが見られ、自分で描いて楽しむだけでなく、他児の表現方法を見て楽しむ様子があった。

また、同じ絵本を読んでも、いろんな捉え方があり、さまざまな素材を好きなように選択できたことで、誰一人同じような表現をする児は居らず、楽しんで制作に取り組むことができていた。

制作を行ったことで、よりその動物を知ろうとする気持ちが高まり、絵本や図鑑を見て学ぼうとする姿勢に繋がった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	はぐはぐキッズこども園中延
施設所在地	東京都品川区中延3-13-16
法人名	はぐはぐキッズ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ・日々の園生活を送る中で、自然と視界に入ってくる色に興味を持ったり好んでお絵描きに取り組んだりする姿が見られるようになったため。
- ・絵の具を使った制作等を通して、好きな色を使うことや色が混ざり合う様子を楽しんでいたため。
- ・好きな色について語り合ったり、見慣れない色の名前を保育者に質問したりする姿が見られたため。
- ・身に着けているものと同じ色を見つける遊びを楽しんでいる姿が見られたため。

2. 活動スケジュール

11月:

- ・発表会衣装作り
- └油性ペンを使って衣装へお絵描きする。装飾として使用するパーツを絵の具で色付け。
- ・マグビルドを持って戸外活動へ出かける
- └好きな色のマグビルドを用意して、戸外活動中に色探しをする。

12月:

- ・染め物の活動を行う
- └複数色、染料を用意して好きな色を使って参加する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・汚れを気にすることなく活動へ参加できるように、園の玄関ポーチにて行った。
- ・ブルーシートの上にタライ、その中に穴の空いた箱を入れて活動へ参加できるようにした。
- ・ボトルの中には十分な量の染料を準備して、児が満足いくまで好きな色を使える環境を整えた。
- ・保育者も一緒に取り組みながら見本を見せていき、コミュニケーションを図って完成形の色味を想像しながら取り組めるようにした。

ー準備物ー

- ・染料 ・巾着 ・ドレッシングボトル ・輪ゴム ・ブルーシート ・穴の空いた箱 ・タライ ・物干しハンガー

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

12月：染め物活動

・染め物用の染料、巾着を用意して制作を行えるように準備をしていった。染料は10色用意して、児が好きな色を選択しながら取り組める環境を整えていった。

巾着に輪ゴムで自由に縛り、染め模様を決める。(児が輪ゴムを付ける位置を決定)

玄関ポーチにて手袋を着用した上で、好きな色を使って染色を行う。

乾燥後、完成した作品を見る。

- ・完成した染め物の巾着は、クリスマスプレゼントの入れ物として使用。
- ・保護者へも染め物をしている時の様子を共有したり、完成した巾着を見せたりするなど児と活動についての話ができるようにしていった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・保育者が活動の説明をしている時点で興味津々の様子だった。
- ・染色後の柄をイメージしながら輪ゴムを止める位置を保育者と決めていくことで、意欲的な姿勢で参加していた。
- ・実際に色を染め始めると好きな色を使用するだけでなく、他児が使っているから・どんな色になるか気になるからといった理由でさまざまな色を試してみることができた。
- ・ドレッシングボトルに染料を入れていたことでボトルの扱いが難しく保育者にかかってしまうトラブルもあったが、絵の具などとは異なる質感を楽しみながら染め物の活動に参加していくことができた。
- ・完成したものを保育者や保護者などの家族に見せて活動へ参加した楽しさや嬉しさを共有していた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・保育者が染め物活動の準備を進めている時点で魅力的だったようで、活動に参加する前から興味を持っている姿が見られた。
- ・活動を行うにあたり複数色準備していくことで興味のある色を使用することができ、夢中で制作に取り組んでいる姿が見られた。
- ・初めて取り組む活動に参加することができたため、普段の興味とは異なる色を手にとって制作を楽しんでいく姿が見られた。
- ・保護者へも活動について共有していったことで家庭内でも染め物の活動についてや色についての話が出たり、翌日以降も園で染め物の活動がしたいことを知らせたりする姿が見られた。より色に対して興味を持っているようだった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	はぐはぐキッズこども園中延
施設所在地	東京都品川区中延3-13-16
法人名	はぐはぐキッズ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

生き物

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

公園などで見つけた生き物や家庭で飼っている生き物などを通して興味を持っていた。生き物を見かけると喜んでる姿があり、また今まで見たことのある生き物の話をする姿も多々見られていた。

図鑑を通し、様々な生き物を見て4月から読んでいた『ぐりとぐら』に出てくる野ネズミを発見し、ネズミの種類や形、色に興味を持つようになった。

2. 活動スケジュール

10月—図鑑で色々な種類のネズミを見つける。ネズミが主役の物語(ぐりとぐら)を見つける。

11月—物語を沢山読んでクリスマスにちなんだぐりとぐらの物語の練習を行う。

12月—発表会で発表する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

いつでも自由に図鑑が見られるように、幼児クラスの本棚に図鑑を置く。

またぐりとぐらの絵本の種類を増やして、イメージが付きやすいようにした。

製作棚を用いて、ぐりとぐらで使うものの制作時は自由に材料を選択し作っていけるようにした。またぐりとぐらの耳を制作する際は再度図鑑や絵本を見て、自分たちで想像した色や模様を描けるようにした。

(制作活動：絵の具の色やマスキングテープなどを用いてそれぞれが制作方法を選択し作っていった。)

(発表会の制作：オーナメントの形に切った画用紙に各自選んだ絵の具やマスキングテープ等で模様を作る。

ぐりとぐらの帽子につける耳を耳の形に切った画用紙に、製作棚から選んだマスキングテープや、クレヨンで好きなように模様を描く)

4. 探究活動の実践

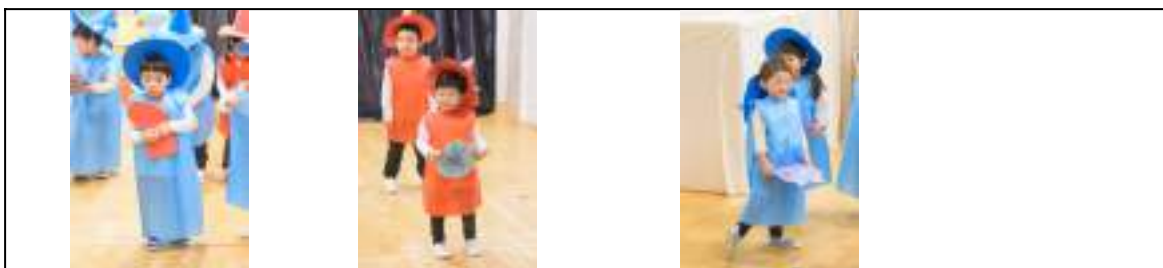
<活動の内容>

オーナメントを子ども達が作りそれを用いて生活発表会で披露する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

自分たちで作ったオーナメント飾りを見て喜んでいました。上手に出来たねと褒めると、友達同士でも見せ合っている姿が見られました。作ったオーナメント飾りを用いて生活発表会に参加した。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

3歳児クラスに上がりぐりとぐらを読み始め、最初は物語に興味を示す姿が見られていなかったが図鑑をみてネズミに興味を持ち物語に興味を持つことができた。

そこから想像力が膨らみ、ネズミの耳はどんな風なのか自分たちで考えて制作を行う事が出来た。

図鑑を見ることで他の生き物にも興味を持ち、家族で行った水族館や動物園で出会った生き物の話をしている姿が見られる。また、公園や散歩中にも生き物を発見すると喜んでいる姿が見られるようになった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	はぐはぐキッズこども園中延
施設所在地	東京都品川区中延3-13-16
法人名	はぐはぐキッズ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

生き物

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

公園などで見つけた生き物や家庭で飼っている生き物などを通して興味を持っていた。日頃から絵本や図鑑など見ている事もあり、名前を覚え、お絵かきをしながら楽しむ姿も見られた。

2. 活動スケジュール

- 1 1月—図鑑、絵本を見て自分の好きな動物を探し絵に描いてみる。
- 1 2月—動物と実際に触れ合い楽しむ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

実際にふれあいひろばに行き、動物に触れる。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

ふれあい広場(カワスイに併設)にて
生き物にも興味を持ち、図鑑を使って調べたりする姿が日頃から見られていた。行く前からどんな動物がいるのかなと保育者や友だちと話す姿が見られとても楽しみにしていた。カワスイに併設されているふれあい広場があり到着すると、自分達が見たい動物の場所まで行きどんな物を食べているのかなど質問を沢山投げかける姿が見られた。モルモット、うさぎ、鳥、フクロウ、蛇などの観察をし、モルモットは数が多かったので名前を覚えながら友だちと交代しながら触れ合いを楽しんだ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)
可愛い、何を食べるのが好きなんだろうなど、なんていう名前なんだろう?と疑問に思い自分達で職員の方に聞き、保育者にも動物を紹介する姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

実際に足を運んでみると、色々な動物に興味も持ち、自分から職員の人に話し掛け、名前や何を食べるのが好きなのかなど聞く姿が見られた。園に戻ってからも動物の話をし、余韻も楽しんでいた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	はぐはぐキッズこども園中延
施設所在地	東京都品川区中延3-13-16
法人名	はぐはぐキッズ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
日頃の遊びの中でブロックや電車で遊ぶ事が増え、〇〇色?と保育者に聞く姿が見られ、黄色、青色など覚えた色を積極的に話す姿なども見られる様になり散歩中には草花にも興味を持つ姿が見られ始めたので活動に取り入れた。

2. 活動スケジュール

12月中旬 絵の具遊び
12月下旬 色水遊び
1月中旬 絵の具とジップロックを使った感触遊び

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

ジップロックに絵の具を入れ、混ぜずに机の上に事前に置いておく。
色々な種類の色を用意する。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

ジップロックを使った絵の具遊び

日頃から色に興味を持ち、ブロックで遊んでいる時にはどんな色をしているのか保育者に聞いたり絵本では興味のある色があると指をさして何色なのか保育者に聞いたりする姿も見られていた。今回の活動では色々な色の絵の具をジップロックに入れ、視覚的にも触覚的にも楽しめるようにした。最初は何だろうと疑問に思いながら触れようとしていなかったが、保育者が実際に触れる姿を見せると興味を持ち触り始める児が増えた。色を観察したり友だちと感触も楽しむ姿が見られた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

色々な色のジップロックを用意していたので、両手で揉みながら色の混ざり具合を見て何色なんだろうと保育者と一緒に見ながら楽しんでいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

絵の具の色や感触に興味を持っている児が多く、色合いも楽しんでいる姿も見られた。触れ合い慣れてくると自分の気に入った色を真っすぐに並べたり友だちや保育者に見せたり姿も見られ子ども達にとって貴重な経験をする事が出来た。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	はぐはぐキッズこども園中延
施設所在地	品川区中延3-13-16
法人名	はぐはぐキッズ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

【色】

<テーマの設定理由>

「身のまわりの色に気づく・興味を持つ」ことをねらいに、カラーセロファンや絵の具を使って色への好奇心を育むことを目指しました。

「普段見ている光景が違う色に見えたら面白いのでは？」と、カラーセロファンを通した世界を子ども達に見せてみたいと思い、今回の活動を考えました。「これは○○色」「△△色が好き」と色の認識が芽生えてきた子ども達。「いつもと色が変わって見るとしたらどんな反応を見せてくれるだろう？」と、私たちもわくわくしながら活動に取り組みました。

2. 活動スケジュール

活動スケジュール：

11月—カラーセロファンを透明の台紙に貼り付ける。

12月—クリスマスツリーの台紙に絵の具を使用して指スタンプで装飾。

1月—完成したセロファンの台紙を持って、戸外・室内で色が変わる様子を楽しむ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

色を重ねることで違う色に変わる不思議さに気づき自分から試そうとするよう、どこでも持ち運んで見られるようにすることで、子ども自らの探索の範囲を広げられるようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

活動内容

<1月>

カラーセロファンを貼り付けたもみの木の台紙を持って戸外に出かける。保育者が見本となって台紙を通して植物の観察をした。子どもたちも真似をして観察を始める。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・「これはなにかなー？」と、身近にある物も台紙を通して見ると新鮮な様子だった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

振り返り

色の混ざり方や変化などはセロファンを重ね合わせたり、絵の具を混ぜ合わせたりすることで興味関心が広がった。実際に出来上がった台紙を持って戸外に出ると、室内で見えていた台紙の印象とは変わったようで「きれいだね」と台紙そのものを光に透かして楽しむ様子も見られた。日陰で見ると少し黒っぽくなることに気づいた児もいた。「これ見てみよう」「これなーんだ？」と簡単な言葉のやりとりをしながら友だちと関わる姿もあり、共に発見を楽しみながら身の回りの物を観察することができた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	はぐはぐキッズこども園中延
施設所在地	東京都品川区中延3-13-16
法人名	はぐはぐキッズ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

生き物

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
保育室でさなぎを飼っており、蝶に孵化する様子を観察したり、孵化した蝶を自然に戻したりする経験をして、昆虫や生き物への興味関心が高まっているように感じた。
また、自由活動時には動物のブロックで遊んだり動物に成り切って遊ぶ様子が見られていた為、興味関心から遊びの幅を広げていけるのではないかと考えた為。

2. 活動スケジュール

10月—動物の出てくる絵本を見る
11月—「ともだちほしいなオオカミくん」の絵本に興味を持ち自分で好きな動物を選び、発表会の配役を決める
12月—絵本の印象に残っている場面を絵で描く
生活発表会で自分で選んだ役を演じる
2月—触れ合い体験(ふれあいドッグパーク)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

劇をするにあたり、生き物に関連する絵本(物語)をたくさん読んだ事で、もっと生き物について知りたい気持ちが高まり、図鑑や写真付の本を用いて調べたり、「触ってみたい!」という意見が聞かれるようになった。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

日頃から生き物が好きで、遊びの中で動物になりきってみたり、絵本や図鑑で動物を調べる姿があった。児から「本物の動物さんに会いたい！」と言う声があがったため、動物と触れ合える場所を探し、カワスイの中にあるドッグパークに出かけ、犬と触れ合ったり、カワスイの館内を見て回った。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

柵の外から見ていた際は、興味津々に見ていたが、いざ同じ空間に入ると少し緊張気味な様子だった。しかし、1人が専用の座布団に座ると、徐々に座り始め、「こうやって触るといいよ」と声を掛け合う姿が見られていた。慣れてくると、積極的に犬に触れ、「ふわふわしてる」「こっちのワンちゃんは毛がクルクルしてる～」と実際に触れ合ってみて気づいたことがあったようだった。また、友達が怖がっていると感じたら、「先生、〇〇ちゃん怖いってこの前言ったから一緒にいてあげよう！」と伝え、安心して過ごせるように考えて行動していた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

犬との触れ合いが、初めての児が多く、終始嬉しそうな様子があった。普段から色々な人と関わっている犬だった為、穏やかで児が触れても暴れたりする様子もなく、安心して触れ合うことが出来ていた。動物は好きだけど、実際に触れ合うのは怖いと感じていた児もいたが、実際に触れ合ったことで動物と触れ合う楽しさを感じたり、自分の思い通りにはいかない大変さを感じたりととてもいい経験になった。とても楽しかったようで、家庭でも嬉しそうに話をしたり、後日家族の時間でお出かけする家庭も複数いた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	はぐはぐキッズこども園中延
施設所在地	東京都品川区中延3-13-16
法人名	はぐはぐキッズ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

生き物

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
公園などで見つけた生き物や家庭で飼っている生き物などを通して興味を持っていた。生き物を見かけると喜んでいる姿があり、また今まで見たことのある生き物の話をする姿も多々見られていた。
図鑑を通し、様々な生き物を見て4月から読んでいた『ぐりとぐら』に出てくる野ネズミを発見し、ネズミの種類や形、色に興味を持つようになった。

2. 活動スケジュール

10月—図鑑で色々な種類のネズミを見つける。ネズミが主役の物語(ぐりとぐら)を見つける。
11月—物語を沢山読んでクリスマスにちなんだぐりとぐらの物語の練習を行う。
12月—発表会で発表する。
2月—ふれあいパーク

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ふれあいパークと当日の流れを確認する
- ・同行する保育者同士で当日の流れを確認する
- ・電車では2チームに分かれて乗車する
- ・画用紙
- ・クレヨン

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

子どもたちは普段から生き物に興味を持って過ごしている。戸外で生き物に触れたり、本や図鑑を通して、興味を深めている。その中で、もっと生き物に触れたいという子どもたちの声があり、川崎水族館のふれあいパークに行った。生き物に触れ、生き物による感触の違いや食べ物の違いを学んだ。後日、触れ合った動物たちの絵をクレヨンで描いて、楽しかった思い出を共有した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

友達と電車に乗れること、動物たちと触れ会えることを楽しみにしながら過ごす姿が見られた。様々な生き物と触れ合う中で、その生態や外見の違いを発見し、喜びながら他児や保育者に共有する姿があった。生き物に触れるだけでなく、体に乗せる体験もすることができ、緊張しながらも体験することに積極的な様子の子が多かった。電車の乗り方や生き物との触れ合い方について、保育者や飼育員の話に耳を傾け、約束を守るうとする姿があった。描画では当日の様子を思い出し、他児と思い出を共有しながら、生き物の様子を描写していた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

モルモット、フクロウ、ヘビ、ウサギなど、たくさんの動物たちに触れることが出来る貴重な経験となった。フクロウを腕に乗せたり、ヘビを首にかける体験は、希望者のみで行ったが、積極的に参加する姿が見られた。触れた感触が柔らかかったり、硬かったり、違いを楽しんでいた。糞の色や形も観察して、その特徴を友だちと話し合っていた。置いてある餌も観察して、生き物によって食べる物が違うことを学んでいた。描画では生き物の特徴を捉えて、表現することの楽しさを味わった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	はぐはぐキッズこども園中延
施設所在地	東京都品川区中延3-13-16
法人名	はぐはぐキッズ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ・日々の園生活を送る中で、自然と視界に入ってくる色に興味を持ったり好んでお絵描きに取り組んだりする姿が見られるようになったため。
- ・絵の具を使った制作等を通して、好きな色を使うことや色が混ざり合う様子を楽しんでいたため。
- ・好きな色について語り合ったり、見慣れない色の名前を保育者に質問したりする姿が見られたため。
- ・身に着けているものと同じ

2. 活動スケジュール

2月中旬：絵の具準備、お絵描き

2月下旬：ブラックライト、暗幕をつけ保育室を暗い空間にして作品が光る様子を見る。2日間に分けて部屋の明るさに変化をつけて行った。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・初めて蛍光塗料を使用してお絵描きを行ったが、普段使う絵の具との違いに気づき、混ぜたり単色で塗り広げていた。
- ・ローラーや筆で描く楽しさや、型を使うことで形が出来上がる様子に興味を持って取り組む姿が見られた。
- ・室内の暗さに怖がる児もいたが、ブラックライトで絵の具が光っていく光景に魅力を感じ室内を見まわしたりして活動に参加していた。
- ・1日目と2日目で室内の暗さを変え、2日目の遮光をしっかりめにした時にはより蛍光絵の具の光る様子が分かり楽しむことができた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

2月中旬：お絵かき

- ・模造紙、段ボール、風船、ペットボトルと4種の素材を用意し、好きな物へお絵描きをしたり色を付けたりできるようにした。
- ・児のアイデアや想像力を膨らませながら取り組んでいけるよう、一色ずつパットに絵の具を出した。
- ・お絵描きプレートやローラーなど普段のお絵描きとは異なる道具を用意して、児の興味を引き出せる環境を整えていった。

2月下旬：ブラックライトを当てて展覧会風を楽しむ

- ・暗闇を作れるよう、しっかりと暗幕を準備し光が漏れ出していないか確認してから下記に続く。
- ・児がお絵描きしたものを暗幕に貼ったり吊り下げたりしながら、満遍なくブラックライトが当たるよう準備をした。
- ・ブラックライトの光が当たっている時、そうでない時の色や見た目の違いに気が付けるような声掛けを意識した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・暗い空間にびっくりし、「暗い、怖い」と口にしていた。
- ・慣れてくると、光っているペットボトルや模造紙に興味を持ち保育室の様子を見回していた。
- ・特に光るペットボトルでブラックライトが当たると、分かりやすく光っていたことで児が手に持ったり集まって「見せて」と言葉を交わしながら観察する姿が見られた。
- ・絵の具では初めてローラーを使った。コロコロとさせながら色を塗っていくことに嬉しさを感じていたようだった。
- ・型を用意したことで、様々な形があることに気づき他児や保育者と「これはカブトムシだね」等と自然に会話が生まれていった。
- ・筆やローラーだけでなく、ペットボトルや風船など普段と違った素材に描く楽しさを存分に味わっていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・初めて蛍光塗料を使用してお絵かきをおこなったが、普段使う絵の具とのいろいろの違いに気づきまぜたり単色で塗り広げていた。
- ・ローラーや筆で描く楽しさや、型を使うことで形が出来上がる様子に興味を持って取り組む姿が見られた。
- ・室内の暗さに怖がる児もいたが、ブラックライトで絵の具が光っていく光景に魅力を感じ室内を見まわしたりして活動に参加していた。
- ・1日目と2日目で室内の暗さを変え、2日目の遮光をしっかりめにした時にはより蛍光絵の具の光る様子が分かり楽しむことができた。